

# 第6章 全ての主体が参加する環境保全の取組

## 第1節 良好な環境を支える人づくり

動く環境教室年間受講者数 5,026人  
群馬県環境アドバイザー登録者数 248人  
ぐんま環境学校（エコカレッジ）受講者数 17人  
森林環境教育指導者数 62人

### 第1項 環境学習の推進

#### 1 群馬県環境学習等推進行動計画の推進

「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が平成15年度に成立し、平成17年度に「群馬県環境学習推進基本指針」（以下「基本指針」という。）を策定しました。

平成23年度に本法が「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」として改正され、体験の機会のあるなどの新しい制度の創設とともに、行動計画の策定などが規定されました。

そこで、理念的である基本指針を引き継ぎ、具体的な環境学習の行動へつなげるための行動計画として、『環境に興味を持ち「人と環境」の関係について総合的かつ科学的な理解を深め、環境に責任と誇りをもって、主体的に行動できる人を育て

る学習』を具体化していくため、群馬県の推進施策や具体的な取り組み、評価指標を用いた点検などを盛り込んだ「群馬県環境学習等推進行動計画」を策定しました（平成27年3月）。

この行動計画では目標と具体的な施策を次のとおり定め、五つの柱として推進して行きます。

#### 【五つの柱】

- 1 人材の育成・活用
- 2 参加の場や機会づくり
- 3 プログラムの整備
- 4 連携・協働の取組
- 5 普及啓発

コラム

### E S Dについて

E S Dは、Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略です。

E S Dとは、現代社会における地球規模の課題（環境・貧困・人権・平和・開発等）を自らの問題として捉え、身近なところから行動をおこす力を身につけることにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ）」で我が国がE S Dの重要性を提唱し、これを受け、同年、国連第57回総会決議により、2005年から2014年までの10年を「国連E S Dの10年」とし、ユネスコが主導機関に指名されました（群馬県環境学習等推進行動計画より抜粋）。

群馬県及び群馬県教育委員会では、このE S Dの流れを踏まえて平成27年3月に「群馬県環境学習等推進行動計画」を策定し、具体的な施策を五つの柱として掲げ、県内の人材を育成し、環境学習を進めていきます。



## 2 動く環境教室の推進

エコムーブ号は、屋根に太陽光発電パネルを設置し、様々な環境学習機材を積んだ移動環境学習車です。燃料は天然ガスで、環境にもやさしい車です。

このエコムーブ号の実施する「動く環境教室」は、水、ごみ・リサイクル、大気、温暖化などのテーマに環境学習サポーター（講師）が学校に向いて、実験や体験活動を交えながらわかりやすく環境について学ぶことができます。

実験は、地球温暖化をはじめ、水の汚れ、大気



の汚れなどを調べたり、リサイクルに関する教材がそろっています。この学習を子どもたちが受けることにより、自分たちの生活と環境問題のつながりを意識し、普段の生活から環境にやさしい行動をしていこうとする気持ちを育みます。

表2-6-1-1 動く環境教室開催状況

年度	23	24	25	26	27
件数	93	80	79	72	73
人数	9,901	5,350	5,715	4,619	5,026



## 3 環境学習サポーターの育成

環境学習サポーターは主にエコムーブ号の実施する「動く環境教室」において講師を行います。

この教室で学習する分野は幅広く知識を習得するための座学や、子どもたちの興味を引きつける話し方や学習の流れを踏まえた実験の仕方など、体験的な学習をより行動へ結びつけるための研修を行っています。

また、ぐんま環境学校（エコカレッジ）においても初心者向けの研修を行い、環境サポーターを輩出してきました。

表2-6-1-2 環境サポーターの人数

年度	23	24	25	26	27
サポーター	58	53	43	40	46

## 4 ぐんま環境学校（エコカレッジ）

県では、環境学習や地域の環境活動に自ら進んで取り組むことができる人材を養成するため、環境問題に関連する幅広い分野のカリキュラムによる「ぐんま環境学校（エコカレッジ）」を実施しています。

平成27年度は、7月から11月にかけて講義やワークショップ、フィールドワーク等を開講しました。受講生は、環境保全や気候変動、環境学習、リサイクルなどに関する講義や育樹作業の体験、尾瀬での環境学習、清掃センターでのリサイクル実習を通して、幅広い分野の知識を深めるとともに今後の活動への意欲を新たにしました。

修了生は、群馬県環境アドバイザーに登録し、地域の活動の動く環境教室の環境学習サポーターとして活躍している方もいらっしゃいます。

平成28年度も事業を継続し、講師や受講生同士の交流の場を設け、横のつながりを築けるような環境づくりに配慮しながら、環境活動に自ら進んで取り組む実施できる人材を育成していきます。

表2-6-1-3 修了者数の推移

年度	24	25	26	27
修了者数	15	17	21	17



尾瀬の環境学習の様子



講義の様子



清掃センターでの実習の様子

## 5 群馬県環境アドバイザー登録、支援、活躍

環境保全活動の地域リーダーとして活躍する人材の育成・支援のため平成4年度から群馬県環境アドバイザー制度を設け、248名（平成27年度末現在）の環境アドバイザーが県に登録し活躍しています。

### 【環境アドバイザーの活動概要】

環境ボランティアとして、環境美化活動、地球温暖化対策、ごみの減量や自然エネルギー等、様々なテーマで活動しています。

平成11年度から環境ボランティアに委託している「地域環境学習推進事業」も、主に環境アドバイザーが企画・立案・実施をしています。

また、環境アドバイザー相互のネットワーク作りのため、平成9年度に「群馬県環境アドバイザー連絡協議会」を設置しました。役員会・幹事会を随時開催し、重点活動内容について協議するとともに、会報「グリーンニュース」の発行、専門部会・委員会（ごみ問題、温暖化・エネルギー、自然環境、広報委員会）の運営、地域ごとに活動

する地域部会など「行動する環境アドバイザー」をスローガンに専門性を伸ばしながら、アドバイザー同士のつながりを意識した活動に取り組んでいます。さらに平成27年度には、群馬県と共催で三回目となる「みんなのごみ減量フォーラム」を開催し、参加者を巻き込んでパネルディスカッションを行い、ごみの減量について討論しました。

表2-6-1-4 群馬県環境アドバイザー登録者数の推移

年度	23	24	25	26	27
登録者数	327	203	275	292	248



**コラム** エコクラブの活動をやってみよう!!

1. こどもエコクラブって何?

こどもと大人で誰でも参加できる全国組織の環境活動クラブです。21年の歴史があり、現在は（公財）日本環境協会が主催し、環境省が後援、群馬県も地域事務局としてクラブの活動を支援しています。活動は、自然観察や調査、ゴミ拾い、リサイクル活動など、自分たちのできる身近な環境活動に取り組みばよいのです。

2. 登録のメリット

- ①環境に関する情報を得ることができます。
- ②希望により、体験活動に参加することができます。
- ③他クラブとのこども同士の交流を図ることができます。



3. 年間の活動

考える→やってみる①②→見てみる（参加する）  
③④→振り返る

(1)【やってみる①…エコロジカルとれーにんぐ】

「こどもエコクラブ」の活動を行うに当たって、まず、**エコロジカルとれーにんぐ**をやってみましょう。

**エコロジカルとれーにんぐ**〈とれーにんぐの例〉

- ①エネルギーウォッチング（どんなエネルギーが何に使われているか調べて、節約できるエネルギーはないか考えてみましょう）

- 電気…冷蔵庫、テレビ、エアコン等
- ガス…ストーブ、コンロ等
- 水道…トイレ、お風呂、料理等
- ガソリン…車、バイク等



○どんな役割をしているかウォッチング。

○昔はどうしていたの？ウォッチング。

エネルギーの種類	どんなもの？	役割	昔は？
(例) 電気	冷蔵庫	冷やして保存	涼しい所へ、塩砂糖漬け

②エネルギーを使ってるどー!! ランキング

○家族はそれぞれどんな事にエネルギーを使っているか調べてみる。

○調べたことをもとに、地球のために誰が何をできるか、家族で話し合ってみましょう。

誰	1位	2位	3位
(例) 母	車（ガソリン） 理由：家族の送迎	掃除（電気） 理由：部屋をきれいに	洗濯機（電気・水） 理由：服をきれいにする

③春を探そう

- ・どんな所で春を見つけたかな
- ・どんな香りや感じが春なのかイメージしてみよう（春のにおいやあたたかさを感じる場所はどこかな？また、春の香りに名前を付けたり、どんな所でどのように暖かく感じたかを記録する）

- ・春を見つけた場所
- ・春の香りに名前をつけよう  
（ ）の香りを感じた。名前は（ ）
- ・春のあたたかさを感じる場所は、（ ）
- ・どのようにあたたかく感じましたか？  
（ ）のように

※エコロジカルとれーにんぐの具体例は全国事務局HPにもあります。参考にしてみてください。  
<http://www.j-ecoclub.jp/challenge/training/>

(2)【やってみる②…エコロジカルあくしょん】

エコロジカルとれーにんぐをいくつかやったら、いよいよ**自分のテーマを決めて**、自分のエコロジカルあくしょんに挑戦してみよう。

**エコロジカルあくしょん**は、自分たちのやりたい活動。自由な活動です。エコロジカルとれーにんぐの調べ方をいかして活動しましょう。環境に関することなら何でも。身近なことからやってみましょう。

- ・自然の中で…自然観察、生き物ウォッチング
- ・家や店で…リサイクル工作、省エネ活動、エコグッズ
- ・町の中で…リサイクル活動、ゴミ調査



(3)【見てみる③④（参加する）】

③群馬県こどもエコクラブ事務局では、**エコロジカルコミュニケーションを高める場**として、県事務局主催の自然観察会（おもしろ体験してみ隊）や交流会・科学工作があります。（希望参加）

④**発表の場**として、希望で、1年の成果を発表する交流会・科学工作への参加や、活動事例集への掲載があります。また、全国こどもエコクラブにも、1あくしょんごとの活動報告（全国こどもエコクラブHP）ができ、自分の活動の成果を多くの人に広めることができます。



## 6 こどもエコクラブへの支援

こどもエコクラブは、幼児から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。2人以上の子どもと、子どもたちをサポートする1人以上の大人でクラブをつくることができ、県がこのクラブの活動を支援しています。

環境省のバックアップのもと全国で取り組まれており、全国大会も開催されています（平成23年度より日本環境協会が運営）。群馬県では平成8年からこどもエコクラブが結成されています。平成27年度の登録状況及び事業状況は次のとおりです。

### 平成27年度の登録状況

- クラブ数50クラブ
- 会員数1,883名
- サポーター268名

#### ア 群馬県こどもエコクラブ学習会

県内のエコクラブが一堂に会し、合同体験学習交流会を行いました。

- a 日時：平成27年8月29日(土)
- b 場所：前橋市赤城少年自然の家（前橋市富士見町赤城山）
- c 参加者：100名
- d プログラム：赤城山・覚満淵散策、マイ箸づくり

#### イ 群馬県こどもエコクラブ交流会

県内各クラブの1年間の活動の成果を発表し、相互の交流を図るため、交流会を行いました。

- a 日時：平成28年1月16日(土)
- b 場所：前橋市立児童文化センター（前橋市）
- c 内容：
  - 活動発表・交流会（5クラブ）
    - ・前橋市児童文化センター環境冒険隊（前橋市）
    - ・まなやんず（伊勢崎市）
    - ・なんきつ子どもエコクラブ（前橋市）
    - ・しらさわエコキッズクラブ（沼田市）

- ・前橋市岩神小学校緑の少年団（前橋市立岩神小学校）

参加者数 110名

#### ○壁新聞掲示（3クラブ及び事務局）

- ・しらさわエコキッズクラブ
- ・なんきつ子どもエコクラブ
- ・スター☆クラブ
- ・県事務局

#### ○科学工作：

生活に役立つゼロファン湿度計を作成して参加者全員が持ち帰り活用することができました。

表2-6-1-5 群馬県内のこどもエコクラブの変遷

年度	23	24	25	26	27
クラブ数	41	32	30	29	50
クラブ員数	3,704	3,027	2,532	2,268	1,883



**7 ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業（森林環境教育・普及啓発）**

平成26年度から始まった「ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業」では、児童生徒や、県民を対象とする森林環境教育や森林体験活動、森林の機能や重要性について普及啓発を図る取組を支援しています。

平成26年度は、県内11市町村において15事業、平成27年度は、県内14市町村において31事業の自然観察会や間伐体験、森林体験バスツアーなどを支援しました。



植樹体験



木工工作体験

**8 ぐんま緑の県民基金事業（森林環境教育指導者養成）**

本県の森林や地球環境を社会全体で守り育てる意識を醸成するため、自然の解説者である「緑のインタープリター」を養成し（36名）、森林や緑とふれあう様々な自然体験活動を通じて人間生活や環境と森林の関係について理解を深め、緑豊かな郷土づくりを推進しています。

養成した緑のインタープリターは、小・中学生を対象にしたフォレストリースクールや緑の少年団育成事業、ぐんま緑の県民基金事業の市町村提案型事業、森林観察会・自然講座などの森林環境教育事業の場で活動しています。



緑のインタープリター養成講座

**9 小・中学生のためのフォレストリースクール**

小・中学校での講義や体験活動等を通じて、森林や緑化の重要性を認識し、森林保全や環境保護への意識啓発を図るため、県内各地で「小・中学生のためのフォレストスクール」を実施しています。近隣の里山の自然観察や林業体験、校庭の木々を生かしたネイチャーゲームやクラフト等を実施するために講師を派遣して、学校の授業を支援しています。

また、夏休み中に憩の森・森林学習センターにおいて、「夏の森林教室」を実施し、児童と引率の教員に対して、間伐や「ツリーイング」を体験してもらうなど、森林や林業について幅広く学ぶ場を設定しています。

表2-6-1-6 フォレストリースクール参加者数

年度	23	24	25	26	27
参加者	1,314	1,995	2,809	2,585	3,336



フォレストリースクール

## 10 緑の少年団育成

「緑の少年団」は、緑と親しみ緑を守り育てるなどの活動を通して、自然を愛し人や社会を愛する心豊かな人間に育てることを目的に、昭和52年に県内の小学校を中心に組織された団体で、平成27年度末で現在324団体、約6万人の子どもたちが活動しています。

学校林の整備や森林の学習会、地域の施設へのプランターの寄贈や清掃活動等、学校や地域の実態に応じて様々な活動が展開されています。県では広くこの活動を支援し、体験活動や学習機会を提供することを通じて森林環境教育を推進しています。



緑の少年団活動

## 11 憩の森・森林学習センターの運営

森林の持つ公益性や多面的機能に対する県民の関心、森林や環境を大切にす意識を高めるため、「憩の森・森林学習センター」(渋川市)において、子供から大人まで幅広い年代を対象にしたイベントやNPO法人等への活動フィールドの提供、指導者養成のための講習会などを年間を通して開催し、森林環境教育を推進しています。

表2-6-1-7 憩の森・森林学習センター利用者数

年度	23	24	25	26	27
利用者数	11,753	11,858	11,118	11,215	11,919

## 12 緑化センターの運営

「緑化センター」(邑楽町)は、県の総合的な緑化推進の拠点として、緑化思想の普及啓発、緑化技術の指導、森林環境教育等を実施するとともに、市町村及び緑化関係業界等に対し緑化情報の提供や技術支援を実施しています。

また、平野部にあることから、平地林保全対策の拠点として、近隣にある平地林を管理するとともに平地林に関する情報交換の場にもなっています。

### (1) 緑化関係講座の開催状況

平成27年度は、県民等を対象とした緑化講座を21回、小学生等を対象とした森林環境教育としての森林学習講座を10回開催しました。

また、例年5月4日には「みどりの日」の趣旨を普及・啓発するため、みどりの集いを開催して

います。講座等の受講者数は表2-6-1-8のとおりです。

表2-6-1-8 平成27年度の緑化関係講座等の受講者数

講座名	緑化講座	森林学習講座	その他
受講者数	1,610	461	89

### (2) 来園者数の推移

保健休養の場を提供するため樹木見本園、庭園見本園等を整備しており、年間3万人を超える来園者があります。来園者数の推移は表2-6-1-9のとおりです。

表2-6-1-9 緑化センター来園者数の推移

年度	24	25	26	27
来園者数	36,898	39,672	41,839	38,264

## 13 教育現場での環境教育の充実

各学校で環境教育の充実を図るためには、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動等のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の実態を踏まえながら環境に関する学習が行われるようにすることが重要です。

そこで県教育委員会では、特に小・中学校において、各学校が発達段階に応じた系統的な取組ができるよう、環境教育全体計画の作成、見直しを依頼しています。

また、県内の環境教育の特色ある取組を広く紹



介するため、環境教育実践事例集「みんなの環境わたしたちの実践」を毎年2月に作成し、県総合教育センターのWebページに掲載しています。

平成27年度は、前橋市立若宮小学校、伊勢崎市立第一中学校、県立前橋女子高等学校の優れた取組を紹介しました。

#### 14 教員向け研修講座（環境教育研修講座）の実施

県では、各学校で環境教育を効果的に推進できる教員を養成するため、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象に「実際に見る・触れる・体験する環境教育研修講座」を実施しています。

平成27年度は、8月及び11月に森林環境に関する環境教育として、学校演習林において講義及び自然観察会を実施しました。また、環境放射能の測定実習を行い放射能や放射線の基礎知識を学習しました。こうした研修を通して、児童生徒に実体験を伴った環境学習を実践するための指導力の向上を図っています。また、自然・生物・化学及びエネルギーの各視点より環境を捉え、体験、分析、見学という形でバランスよく展開し、延べ16名が参加しました。

##### 【研修の概要】

##### (1) 森林環境について

日 時 平成27年8月18日(火)  
場 所 群馬県立利根実業高等学校演習林  
内 容 「学校演習林における環境教育」  
講義 「群馬県の森林の現状と課題」  
「学校演習林における環境教育」  
実習 「森林レクリエーション」  
「学校演習林の自然観察」  
講 師 群馬県立利根実業高等学校教諭



##### (2) 環境放射能について

日 時 平成27年11月11日(水)  
場 所 群馬県衛生環境研究所  
内 容 「調査体験から学ぶ環境教育  
～環境放射能の測定～」  
講義 「放射性物質の群馬県への影響」

「環境放射能水準調査で行っていること」

実習 「環境放射能測定体験」

「身のまわりの放射線測定体験」

見学 「研究所内施設見学」

意見交換会

講 師 群馬県衛生環境研究所大気環境係



##### 【関係業務】

##### (1) 尾瀬自然体験研修（小・中学校初任者研修）

ア 事前研修 尾瀬の自然体験について理解するとともに、尾瀬の自然、歴史、環境保全について学びます。

日 時 平成27年7月29日(水)・平成27年8月5日(水)

場 所 群馬県総合教育センター

講 義 「尾瀬自然体験研修について」

イ 現地研修 尾瀬の自然環境のすばらしさを体感するとともに、児童生徒を引率する上での環境保全に関する知識を習得します。

日 時 平成27年7月30日(木)・平成27年8月6日(木)

場 所 尾瀬国立公園

内 容 「尾瀬自然体験研修」

ウ 事後研修 研修の成果と課題をまとめ、引率時の指導者の役割や体験活動の意義について理解します。

日 時 平成27年7月31日(金)・平成27年8月7日(金)

場 所 群馬県総合教育センター

内 容 「研修成果のまとめ」